

2021年度（第10期）

事業計画書

自 2021年4月1日

至 2022年3月31日

東京都千代田区神田錦町3 - 20 錦町トラッドスクエア6階

公益財団法人 読売日本交響楽団

2021年度事業計画

2021年3月12日

公益財団法人 読売日本交響楽団

(1) 基本方針と営業戦略

公益財団法人として、新型コロナ禍の厳しい環境の中でも、質の高い音楽を提供し続けることが私たちの仕事だと認識している。このため、今後新型コロナウイルスの影響がどの程度続くのか予測は難しいが、感染予防をこれまで同様に取り、政府や東京都などの要請を遵守しながら、演奏会を開催していく。

有料入場者率は、約6割と厳しい見方をした。減少が予想される会員のつなぎ止め策などに積極的に取り組み、少しでも入場者を増やしたい。増収策と経費削減をバランスよく図っていく。

また、ライブが基本だが、コロナ後の戦略として、配信事業なども、採算や効果を研究した上で、考えていく。

(2) コロナ対応

観客および楽員の感染防止を第一の優先事項として取り組んでいく方針は、前年度から変わっていない。

昨年コンサートの自粛要請が緩和された際、読響は会員を手放さず席の再配置を行うことで顧客のつなぎ止めを行った。かなりの煩雑な事務作業だったが、コロナ禍としては充分合格といえる5割超の入場者を確保することができた。新年度もこれを続け、これまでに得た経験を基に、臨機応変に対応していく。

また、2020年のように、感染状況により外国人アーティストが来日できないことを想定して、優良な日本人を早めに確保し、この機会に若手発掘の手助けにも寄与したい。

(3) 指揮者などのプログラム

2021/2022 シーズンプログラムは、新型コロナウイルスの影響で、例年より2か月遅れの異例の発表となった。

常任指揮者ヴァイグレの3年目のシーズンで、ハイライトは2022年2月のR.シュトラウス「エレクトラ」(演奏会形式)。首席客演指揮者のポストを2年間更新した山田和樹は、シベリウスから諸井三郎まで幅広い演奏を披露するほか、特別客演指揮者の小林研一郎、ヴァイオリンの諏訪内晶子、ハープのメストレ、フルートのパユなど、豪華ゲストを予定している。

(4) 60周年など今後の展望

2022年が、読響創立60周年の節目となることから、様々な記念事業を検討している。60周年のロゴを制作し、同時代の作曲家による委嘱作品の演奏や訪れる機会の少ない地方公演、クラシックファン拡充のため若い世代へのアプローチなどを考えている。

公益財団法人として海外への発信にも力を入れたい。欧州公演やコロナ後の在り方として海外オケとのコラボ配信なども考えていきたい。

(5) 日本テレビとの連携

2021年度も、日本テレビの収録を10回予定している。「hulu」での配信は、すでに最近の収録については行っているが、さらに過去のものも配信対象として順次拡充していく。

2021年度 事業計画一覧

I. 自主公演（国内） 57回

1. 定期演奏会	10回
2. 名曲シリーズ	10回
3. 土曜マチネーシリーズ	10回
4. 日曜マチネーシリーズ	10回
5. 川崎マチネーシリーズ	4回
6. 大阪定期演奏会	3回
7. 読響アンサンブル・シリーズ	4回
8. 特別演奏会	6回

(内訳)

首都圏特別	4回
地方特別	0回
第九公演	2回

II. 依頼公演 40回

1. 首都圏公演	29回
2. 地方公演	9回
3. テレビ出演	2回

I + II 合計

97回